

「ヨン」様先生「生徒に好評

「冬のソナタ」題材に韓国語授業



「冬のソナタ」を使い、聞き取り練習をする生徒たち＝鹿児島市の鹿児島東高で

韓国の人気ドラマ「冬のソナタ」を教材にした韓国語授業を、鹿児島市の県立鹿児島東高（田之上貴己校長）の山下敏裕教諭が始めた。「現在の文化や生きた言葉を学ぶには最適。印象的なせりふがちりばめられて覚えやすく、友達同士の会話がいろいろ魅力」。全20回を教材化し、「ヨン様先生」に生徒たちの反応も上々だ。

山下教諭が担当するのは国際教養科。3年間の総仕上げの教材に「冬のソナタ」を選んだ。今月、「冬のソナタ」授業をうけた3年生は中学時代、SMA P草薷剛さんのテレビ番組「チョナン・カン」で韓国語に触れ、高校入学時は間近に迫った日韓共催のサッカーW杯で国内はわいていた。「親近感があった」「あの文字を読んでみたかった」と口をそろえる。

「生きた言葉学べる」鹿児島東高

日本語書付きのダイジェスト版で肩慣らし。次に山下教諭が韓国で仕入れた字幕なしの完全版を見せた。生徒たちは熱心に耳を傾け、聞き取れた言葉を次々にハングルで書き落す。

3話目は主人公のチュンサンが交通事故に遭ったことをユジンが知る場面。山下教諭が「聞き取れた表現を挙げてみて」と聞くと、登場人物そのままに「何かあったの」「チュンサンが死んだんだって」「そんなはずない」と、生徒が次々に答え始めた。

一通り答えが出ると、聞き取れた言葉の中から新出単語や表現を取り出し、山下教諭が例文を示す。伝聞表現の「……だつて」の例文は「ヨン様が日本にまた来るんだつて」といった具合。

韓国人独特のしぐさも学ぶ。例えばチュンサンとユジンが出会う場面。チュンサンが「君といてやればいいんだろ」と言う

ろく、ユジンが「すごいありがたいな」と言いながら最後に「ツツと舌打ちをした。舌打ちの意味に首をかしげる生徒たちに、山下教諭は「仕方ないなあ」という気持ちを表しているんだよ。韓国人はよくやるけどバカにしているわけじゃない」。

韓国語は敬語とパンマ（ため口）がはっきり区別されているが、教科書で扱う例文はほぼ敬語だ。生徒の野田美佳さんは「教科書通りに話したら韓国の友達がいやになってくれなかった。友達とどう話せばいいのか、冬のソナタとよく分かる」と言う。

同校は86年に同科を設置。第2外国語が必修で、韓国語は98年に加わった。当初は中国語の人氣が圧倒的だったが、昨年4月に逆転。「お隣の国のことをもっと知り、好きになってほしい」と山下教諭。韓国ドラマを使った次の教材を早くも思案中だ。（山下知子）